

犬猫の飼い主の皆さまへ

避妊・去勢手術のススメ

北海道では「動物の愛護及び管理に関する法律（動愛法）」に基づき「北海道動物愛護管理推進計画」を策定し、動物愛護の普及啓発などを行っています。

この計画では犬猫の適正な飼養のため、避妊・去勢措置を勧めています。
なぜ犬猫の避妊・去勢手術が必要なのでしょう？



1 犬の場合

メス犬は生後1年くらいで子どもが産めるようになり、年2回発情します。
妊娠期間は約2ヵ月で1回の出産で5～10頭の子犬を産みます。

メス犬の避妊手術のメリット

不妊手術をすることで望まない子犬が産まれないでなく、命に関わる病気の乳がん、子宮蓄膿症などの予防になります。

周期的な性格の変化がなくなり精神が安定し飼いやすくなります。
生理は1ヵ月近く続くため、出血のわずらわしさから開放されます。

オス犬の去勢手術のメリット

去勢手術を行うことで、ストレスから開放され、よく見られるマーキングや鳴き声、他の犬とのケンカなどの行動も抑えられます。

前立腺肥大症、肛門周囲線腫瘍、会陰ヘルニアなどといった病気の予防にもなります。



2 猫の場合

メス猫は生後8ヵ月くらいで子どもが産めるようになり、年に2回発情します。
妊娠期間は約2ヵ月で1回の出産で4～8頭の子猫を産みます。

ただし、猫はほかの動物に比べて非常に繁殖能力が高く、交尾排卵のため交尾をすると必ず妊娠し、どんどん増えていきます。

メス猫の避妊手術のメリット

望まない妊娠が避けられ、繁殖に関するストレスから開放され、穏やかに過ごすことができます。
性行為による猫白血病、猫エイズ感染症などに感染する機会も少なくなります。

オス猫の去勢手術のメリット

尿の臭いが軽減し、スプレー行動もほとんどなくなるため家の中で快適に暮らすことができます。
メス猫や縄張りを求めて外に出たり、ほかの猫とのケンカも少なくなり、咬傷や性行為による猫白血病、猫エイズ感染症などや、交通事故に遭遇する危険性も少なくなります。

猫の室内飼育

猫は外に出さないとストレスがたまると考えている方がいますが、猫は本来、室内の縦方向の運動だけで十分飼育できます。

オス猫は発情したメス猫のフェロモンに敏感に反応して、興奮して外に出たいという自然の欲求がでできます。

そのために、繁殖をさせる目的がない場合はメスオスとも避妊・去勢手術を適切な時期に受けさせていたほうがいいのです。



避妊・去勢手術のデメリット

犬・猫とも必要なカロリー量が少なくなるため、手術前と同じ食餌量・運動量だと太りがちになりますが食餌制限と適度の運動で肥満から解消されます。

避妊・去勢手術の時期

犬・猫とも繁殖させる予定がなければ、メスは最初の発情前、オスは生後1年以内の適切な時期に行うのが効果的とされています。

ただし、この時期を過ぎてからでも手術はできますので、犬猫を飼われている方は今からでも遅くはありません。

詳細は最寄りの動物病院にお問い合わせください。